



おちほ

第 8 号

1982年1月1日発行
社会福祉法人 椎の木会

落穂寮 正司
発行者 増田 正司

成人の問題を考える

落穂寮長 増田 正司

新年あけましておめでとうござい
ます。

お蔭さまで、82年の新春を、寮の
子ども達と元気に迎えることができ
ました。本年もどうぞ宜しくお願い
とご鞭撻をお願い申し上げます。

さて、81年頭のご挨拶で寮内の
様子をお知らせいたしました。それ
は子ども達の年齢が大きく、大人に
なった者が多くなったということ
でした。大人になったこれらの人達が
「できるだけ社会で幸せになる」方
法を考えたのでした。その考えによ
ってどんな実践があったか、確かめ
てみたいと思います。

私たちは、まず職員みんなが考え
方を理解しなければなりません。年
度末の三月をすぐ迎えて、例年にな
く多くの退職者があり、新採用の職
員が日常の生活指導に慣れ、ひとり
ひとりの子どもの人物像や指導目標
や未来像がぼんやり乍ら浮んでくる
のは秋も深くなってきたからであり
ます。職員のみなが成人者の問題を考
えられるまでに彼らの生身に触れて毎
日を指導し強さも弱さもわかり、淋
しさも悲しみにも共感する実践が如
何に大切であるか、落穂寮は経験を
通じて知っています。秋の行事の忙
しい合い間をぬって成人対策が朝礼
ではなされました。担当者と真剣に

議論する時もありました。親や他の
施設についての情報不足が指摘され
それを集める仕事が始まりましたし

ました。親許を離れた毎日が淋しく悲
しくないように子ども中心の大家庭
といった運営の中で、厳しく鍛えら
れるはずが保護的になりすぎて、目
標とする人間性獲得の一手手前で足
ぶみしていないか反省することもあ
りました。熱のこもった話し合いに

時間が過ぎるのを忘れて、児童朝礼
を終えた子どもたちが職員を呼びに
くる場面もありました。
一方、個々の親たちへの話しかけ
を担当が進めていきました。

寮が考える計画を家族で話し合い
し、かじかのかの結論に達したと連絡する
ところもありました。

成人の我が子の将来をどう考えて
いるかを主題にした親の会が開かれ
ました。寮の生活に安心して、まか
せきつた気持ちでいた親たちは今更冷
たい、と言わんばかりでした。戸惑
いと心配一杯の顔が訴えていました。
動揺を予測していましたが、むしろ
どうしてほしいか卒直な声を聞きた
かったのです。しかし、それは親の
気持を察して寮が決めたければなら
ないことを痛感しました。

障害を背負ったの生涯の幸せを作
ることは大変な仕事だと思えます。

しかし、できるところから手をつけ
なければなりません。

とりあえず軽い作業能力があり引
き続き就学前の訓練に入れそうな者
を、作業所や授産施設等の精神薄弱
者援護施設に入所させる検討を始め
ることにしました。そして選ばれた
四人が入所を予定した作業所実習に
入り、三人がうまくいってそこに移
っていきました。又地元にある自動
車部品加工の事業所で五人が職場実
習に入ることに、そのうちの二
人が職場適応訓練をうけるようにな
り、兩名とも右の事業所に就職しま
した。

今、県下の各地で共同作業所づく
りが障害児の親御さんを中心に始ま
っています。そうした運動に参加す
ることも大切なことです。われわれ
の親御さんの中から、所有の土地を
施設作り（作業所などの）に提供す
る申し出もでてきました。

待望の石部町手をつなぐ親の会も
発足して、事業を開始しました。
落穂寮の職員や親たちが力をあわ
せて、成人者が「社会で幸せになる」
ための運動と建設を、82年も強く進
めていきます。

皆様方の力強いご支援をお願い申
しあげます。

第七回同窓会開催さる

文化の日に一二〇名集う

寒さが次第に増して来た十一月三日、第七回同窓会は食堂や居室ホールなどを会場とし盛大に行なわれました。午前十一時半、増田寮長のあいさつに始まり、記念撮影、その後各催しコーナーでの会食など四時間余りの短い時間でしたが、それぞれの会場のあちこちで昔話に花が咲きました。その時の催し場の様子をご紹介しますよ。

ディスコ会場から

十一月三日午後十二時。会場準備も終え、看板も飾り、自分のおなかの中にも、たこ焼二皿、綿菓子三本、豚汁一杯、おにぎり二個をつめ込み、あとはつめ込んだ分を消化させるだけなのに二十分たっても三十分たっても誰も来ない。必死になって呼びこみにまわって「なんじゃ あれは？」という目で見られる。少しやさしげな人は「どんな事してるの？」と聞いてくれる。よくぞ聞いて下さったとばかりに「催し物会場ではディスコ大会、カラオケ大会をしてい

ます」とはりきって答えると「ふん 若いわねえ」と冷たい言葉。ううもう一時だ。せっかくB棟のホールに暗幕をはりめぐらせ、赤や青の照明でムードを盛りあげ大きなスピーカーやマイク、スポットライトまで用意して、みなさん待っているのに……。

ええい、こうなったらややくそだと知っている顔の子どもたちを無理やりホールに入れて、踊っていると、来ました来ました団体さんが。それからもうトントン拍子でディスコ大会、カラオケ大会と進み、時間も忘れて踊りまくり気がつけばもう四時。他の模擬店はまだもう片づけ始めているのに、ここのB棟のホールはまだまだ熱気ムンムン……：ファイバー、ファイバー！

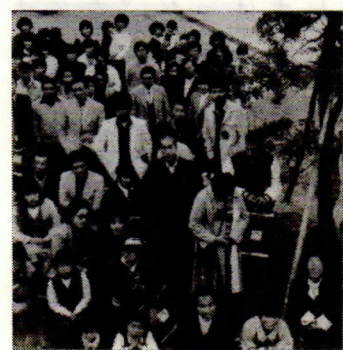


最初はどうかなることかと思っただのに、最後はこのとおり。踊りを練習したかがありました。(高松)

おかあちゃんの味

かすりのはんにんに、もんぺ姿、着替えが済んで、みんなお互いの格好を見てゲラゲラ……。どんなに化粧してみたところでやっぱりお百姓さんの姉さんスタイルでした。(ああはずかし)

恥も何もかもかなぐり捨て、こうなれば若さと美貌、そして味で勝負です。一日うどん屋のお姉ちゃんに徹することになりました。十二時半をピークに、お客さんも大入り満員でした。私たちは、大声をはりあげ「うどん一丁。」



「そば一丁。」あれよあれよという間にうどんが売り切れ。残るはおそばのみ。それも夕方までには殆んどなくなりお客さんの評判も上々でした。それもそのはず、私たちのバックには中村孝司君のお母さん(というよりおかあちゃんがびったり)がついていて下さったのです。どっしりとした、でっかいおかあちゃんの作るだしは、天下一品！

我が落穂寮の同窓会の為にわざわざ来ていただいたのです。ここでご存知でない人の為に教えませんが、なにをかくそう中村君の家は、大津駅前のおうどん屋さんなのです。日頃、厨房で私達が寮の子供達の為にと、おいしいうどんを作っているつもりでも、やっぱりおかあちゃんの味にはおそれいりました。まだまだ勉強、勉強です。最後に、うどんを注文されたのに食べられなかった方々ごめんなさい。それから中村君のおかあちゃんありがとう。(田中)

こたつのある喫茶店から

秋の冷たい雨が降る十一月二日。明日は同窓会という前日なのに我喫茶コーナーは何の準備も出来ない。落穂を代表するかしい三人娘と、中年にさしかかった中嶋指導員と事務の北村さん。この五名が、明日は喫茶店に変身し

なければいけない食堂にボンヤリ居るだけ。他のコーナーの準備が終った頃、そろそろ始めようかと重いからだを動かし始めた。どうせ私達の事、洒落た喫茶店はできっこないさと、自暴自棄になりながら考えたのが窓辺に設けた「こたつ」のコーナー。マスター気取りの中嶋先生から「年寄りくさい発想や。」とけなされたが「もうお互い若くはないのだから……。」と、私のお客様へのサービス心から生まれたこのコーナーが、誕生する事となった。

さて、当日。メニューはコーヒー、紅茶、ココアにジュース、ビールやオードブル、果物までそろ……

たこ焼きとわた菓子と

いかがでしたでしょうか。たこ焼き、わた菓子おいしかったです。いろいろなと不安はあったものの橋本先生を頼りにたこ焼き作り、村井先生はわた菓子作りに挑戦。買って食べたことはあっても、自分で作りそれを食べてもらうのははじめて。橋本先生は、以前にもたこ焼きを作ったことがあるというので、さすがに慣れた手つき。たこ焼きの方は、お客様

えエプロン姿も初々しく、皆様のお越しをお待ちした。白いカーテン、テーブルの上にはフリージア。そろそろ来ました懐かしい人達が。営利を目的としないこの喫茶店。思い出話しと近況報告が売り物。ウエートレスも時々外に出て、たこ焼きなどを食べながら……。いかがでしたか、この喫茶店。次回の時もこのコーナー、かしましいが、口べたなウエートレスやマスターがお待ちしてます。ちなみにコタツコーナーのお客様は、池谷先生率いる飲んべえ様御一行。その場にとでもふさわしいと皆が納得。それでは、次回お会いできる日まで皆様お元気で……。 (藤沢)

んでもらえたと思います。たこ焼き、わた菓子コーナーで皆様には満足していただけたかどうかわかりませんが、誰よりも喜び、楽しんでいたのは、作っていた私達かなと思っています。たこ焼き、わた菓子を作るにあたり経営その他いろいろな方々にお手伝いいただき、本当にありがとうございました。 (湯浅)

おむすびコーナー

店の構えができるまでといったら、まあ、いろんなことがありました。なかなかこれといったイメージが浮ばず、あるがままにくっつけていったという、この店。それでも当日は「映画村の店先か？」はたまた「おぼけ屋敷か」という雰囲気は納まった。そして「おにぎり」を並べ、豚汁も湯げを上げて準備万端。といったところで、さあさあ我らの見せ所といそいそと衣装替え。かすりの着物に赤い前掛け。それなりの顔をして店ののれんをくぐれば、それなりの絵になると、誰かさんにおほめをいただいで上機嫌。隣にはやきいも店のお兄さん、朝から火の当番。ハッピー姿で大張り切り。そろ

そろ皆様のおいでのなるころと、おにぎりを盛るのもかたくなに声もどこか上ずいて、それでもその気になって、いつもよりちっぴりお上品。「おいしかったよ。」の一言が聞けず、ちっぴり不安顔のおねえさん。でも、おにぎりの売れゆきと、皆様の笑顔で、一人納得。そうこうしているうちに、デイスコ、カラオケの音が聞えてくると、じっとしておられない我ら二人。あっちうろこっちうろ、結局、最後の最後まで売あげようとしている。商売熱心な隣りのやきいも店のお兄さんに店を任せ、いざデイスコへ！皆様、つたない我ら三人の店をご利用いただき有難うございました。 (長谷川)

御薄はいかが

「お茶？」いったい誰がやるのですか？「あなたですよ。」と言われた時、私は目の前がまっくら。始めの頃は「私、できません。」「困ります。」などといういろいろ断っていたのですが、男子職員からおだてられつついついその気になってしまったのはいいけれど茶の湯の経験のない私は「困った。」「困った。」の毎日でした。

そこで寮長の奥様をお願いして寮長宅にて特訓を受ける事にした。がそれは、私にとっては地獄のような毎日でした。

日頃、正座などめったにしないためすぐ足がしびれ「ちょっと足が……。」と言っては、へばっていました。又、茶きんやふくさの使い方など、何回も練習を重ねて「やっとできたわねえ。」と言われるくらいのだじぶりでした。しかし、私はこの特訓の間に一つの発見をしました。それは普通抹茶をあまり飲むと眠れない、といわれているようですが私の場合、二三杯ぐらい飲んででもそのようなことはなく、むしろよく眠れたとい

うことです。それはさておき、当日着物を着てのお茶席、われながらなかなかのものでした。始めのうちはお客様が少なく、私などはたこ焼きばかりたべていました。寮長がお茶席に来られたときは胸がドキドキでした。ところが寮長何を思われたか急に立ち上り窓から「お菓子がたくさん余っているからお茶席に来る様に。」と言われました。私はガックリ。寮長、お菓子が余っているからとはなんですか、○○な保母さんがいるから来る様にと言っははしかった。なんだかんだと思っっているうちに無事終ってしまいました。(山口)

スペシャルオリンピック第一回大会 — 神奈川県藤沢市

落穂寮 近畿地区を代表して参加

二笠宮寛仁殿下より激励を受く

この子らのサッカー

基本練習の過程

第一回日本スペシャルオリンピックは十月三・四日の両日、神奈川県藤沢市の県立スポーツセンターで開催され、当寮からも選手十

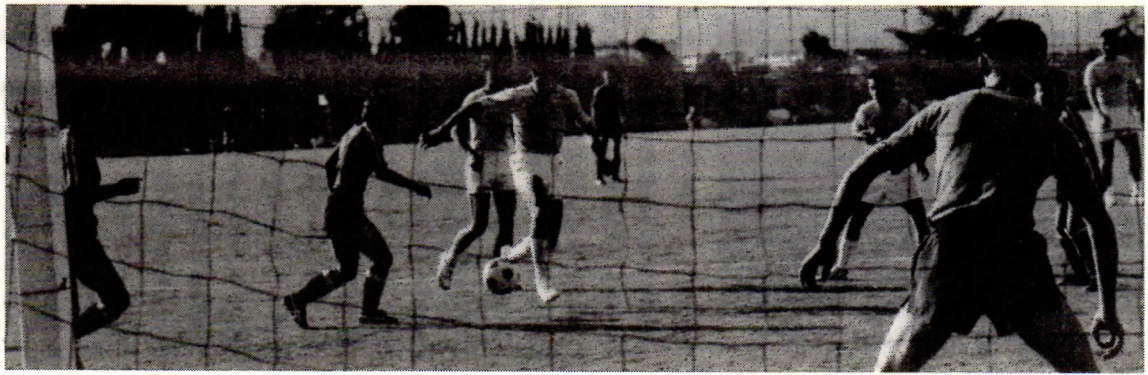
二名、監督、コーチ四名を派遣しサッカー競技に参加した。七月四日参加競技を決定し、選手の手の選考に入って十二名を選出した。年齢十一歳を頭に三十三歳までの男子十名、女子二名というバラエティーに富んだ選手団になっ

た。

落穂寮の生活の中にサッカーが入り込んだのは石山南郷から現在地甲賀郡石部に来てからの事で、屋食後や日課終了後、時には小雨の中、雪の上で一名(チンパイ戦)として、遊びが主に定着した。しかし、その頃の猛士達は就職し、今では一回りも二回りも小つぶになっってしまった。しかし、これも私達の施設の性格からして当然の事柄であると受け止めた。見様見做の遊びから公式競技として参加出来るまでに組み立てて行くには練習を重ね、体で覚えるより方法がない。

- これから四カ月間に数多くを指導する事は不可能なので、まず最も基本的な部分を決め、一段一段の階段を登っていくことにした。
- 一、サイドキック(インとアウト)
- 二、トラッピング(ワントラッピングを主に)
- 三、ドリブル(円周を使って、あるいは矩形を使って)

この三つを基本練習として二十分から三十分間行い、その後職員チーム(保母主体)と紅白戦を三十分から四十分間行う。この後半部の紅白戦では競技の流れと競技の組み立てを主眼にした。その為



職員の方に最初から力があり過ぎ
ては選手の方はやる気を失うので
出来る限り力を押え、接近した領
域で対戦を繰り返す。そして、選
手側のマスタースピードに合せて
指導者側も力を出して競り合わせ
粘りを付ける。これがまず第一
段階であった。

次にこれまで一カ月間の練習に
プラスして

一、パスの出し方(タイミング)
二、パスの受け方(タイミング)

この当りから競技のルールもよ
り厳しくしていく。例えば「スロ
ーイング」(タッチラインを出た

ボールは相手側のボールになり、
そのボールを両手でタッチライン

にそって頭上後方から足先の向っ
ている方向に投球する。)これに

しても、身体に麻痺があればなか
なか手足が共応しない。その為、

ハーフスローとして反則となる。
あるいは体軸の確保が困難な場合

も結果として、ボールコントロー
ルが難かしく、反則になり易い。

と言う具合に、それ用に全員がス
ローイングの練習を行うと同時に

スローイングの要員も必要となっ
てきた。選手中四名が麻痺からの

ハーフスローであった。これらに
気を付けながらパスを受ける為

に

は相手のいない場所に、素早やく
行かなくてはならないし、相手の
マークをはずす必要に迫られる。
これを教えるには選手の数だけの
要員が必要で、職員をフォワード、
ハーフバック、フルバックと位置
を取らせてパスワークの基本型に
取り組んだ。ドリブルで進みなが
ら職員と職員との間にボールを通
し、走っている味方にボールを継
ぐ。これを職員は最初立って動
かずにボールを通してやり、次第
に要領が理解出来るに従って職員
も動く、選手達にそれによってボ
ールを受けるタイミングとボール

を持つている味方との呼吸を覚え
させて、パスをする者も受けるも
のも、絶えず呼吸とリズムを合わ
せる点に気をくばった。この辺に
なると判断力や決断力が問われ選
手の負担が大きくなって来る。こ
れらを第二段階として、次の課題
とし取り組む。

一、身体全体(手腕部以外)での
トラッピング

これは相手ボールであっても、
味方のボールであっても、カット
プレーが必要な場合等足だけでは
ボールコントロールが出来ないの
で、ダイレクトボールや強くはず
んだボール等はどうしても身体全

体でコントロールする必要があり
これは再三に渡ってペナルティ
エリアに配置した選手に向ってボ
ールを投げ、これを身体で受け止
め、ゴールに向って突込む。これ
によって相手GKのミスさをさそう
と言う反則に近いプレーの練習も
極めて大切な要素である。例えば
味方がタテパスを送った場合にこ
のボールを受け止めたり身体で制
御し、ゴールになだれ込んだり、
キーパーチャージ寸前でシユー
トする為にも重要な内容である。

最終段階として

一、インステップキック
二、ヘッティング

この練習の一のインステップキ
ックは相手に深く攻め込まれたり
あるいは逆に攻め返す為にはボー
ルを大きく蹴る必要がある、これ
は第一段階で練習したインサイド
キック(ショートパスに必要)と

並んで大事な練習で、選手と職員
を向い合わせに並べ三十m位を目
標に練習を行った。

二、ヘッティング

この練習についてはセンターサ
ークルに選手を位置させ、コーチ
がサークル中心部から平行ボール
やフライを投げヘッティングで返
す練習と、ゴールエリア付近での
ヘッティングシュート練習等でグ
ループによる空中戦用(味方同志
でヘッドからヘッドへ継ぐ)ヘッ
ティング練習等は選手の力から困
難であった。

一つの競技を行うに必要な練習
を四カ月間と言う短い期間で取り
組んでどれ程身につくかは大いに
疑問である。練習はやりかければ
極まるどころがない。けれども与
えられた時間に最低限、やってお
かなければと思った内容の重点的
なところをここに述べた。

手に汗する第一試合



入場式を前にして。

十月三日午前五時三十分、寮長
に見送られて出発。神奈川県藤沢
市に向った。新幹線の中で職員が
つくってくれた「にぎりめし」を
食べ胸踊らせて現地に乗り込んだ。

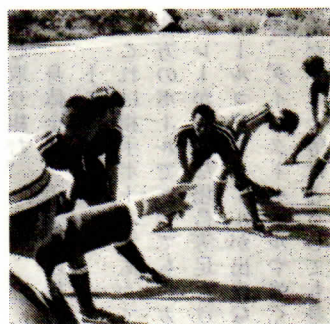
ひげの殿下の激励

正午過ぎで受け付もほとんどのチームが終っていた。すぐさま競技別監督会議に出席し、選手達の力量やルールのマスター度等について打ち合せを行った。一時からの開会式が少し遅れて始められ、選手団入場開始、当寮は近畿代表として、その代表旗と選手団旗を先頭に入場。風力10mを越えそうなか

ほ お ち

中で3mに2mの旗を木田仁重・川崎恵三が堂々と支え歩んだ。それに約一時間の間しっかりと地を握んだ四本の足、手。そして身体が引き裂けんばかり広がった旗を支え上げてくれたのは脱帽した。開会式が少し長くなったので競技開始を午後二時二十分と言う事であわただしく選手は着替えを行い、グラウンドに出た。一面のグリーングラス、スタンドには何と観客がぎっしり。ロイヤルボックスに三笠宮(ヒゲの殿下)さまがご着席になったので、すぐに競技を開始する、とのレフリーからの連絡。全く練習なしの試合になってしまった。こんな広いグラウンド(一一二〇m×九〇mの公式則定最大のもの)で一度だって練習を行なった事がない。私自身、大きな緊張を覚えた。

アナウンスが流れた。第一試合



さあ ガッチリいこう!

近畿代表滋賀県落穂寮。関東代表神奈川県立伊勢原養護学校。

両チームがハーフウェイラインに整列、試合前の挨拶、大きな拍手である。それにしても、見るからに我が選手は小つぶである。相手チームのボールで試合開始、緊張とグラウンドの広さに圧倒されてか個人の守備位置が守れない。味方のボールになっても同志で取り合う。又FBも足が地につかずミスキックで攻め込まれる。キーパーも呼吸が合っていない。主力選手が上っている。ベンチで声を掛けてもとどかない。ふと自身の過去を思い浮べるに十分であった。十五分間戦い、三分間の休憩、十五分戦い三分の休憩、そしてハーフタイム。この時すでに七点を失っていた。選手達は息をはずませて戻って来た。そして第一声「先生、今日はようやったやろ」て

れにはもう指示も答えもなかった。ただ「もつとやれ!」まだまだやれる!私の回りを囲んだ選手にメガホンでハッパをかけた。まだ主力選手は汗をかいていない。きつと落ち付かないのだろう。「どうや一杯やれ!」とお茶をくんでやる。喉がかわききっているに違いない。GKのKとFWのTがすまなさそうな顔である。

ハーフタイム終了前に選手達はグラウンドに出て行った。後半戦が始まった。相変らず相手同志で足の引っぱり合いが多い。Yなどはドリブルで進んでいる味方の背中を引張って「僕にも蹴らせろ」大声でわめきながらボールをカットしてしまふ。私達はハラハラなのだが、ある面では可愛く、ほほえましいので拍手が湧く、観客の殆んどが「落穂寮頑張れ!」のコールである。ある者は相手を追いきれず息切れ、深呼吸して又ダッシュして行く、この当りも年少組の愛らしさだったのだろう。相手に得点されても我がチームが得点したように拍手を送るNやY、何ともフェアなことである。ともかく選手は無我無中でやっているのがある。5点失って十五分が過ぎた。ベンチは声を合せたように「よ



う頑張ると、もうちょっとや、頑張れよ!」「ハアアイ。」声だけでも大きい方がよい。と私が言う、ベンチの後方に集ってこれている関係者や滋賀県の出身者や観客から拍手。

笛が鳴って最後のクォーターが始った。出て行く選手に「ラインを攻めて上がれ!キーパーには声を掛けてFBをッカンヌキッにならんようにせよ!」この二つを指示した。やっとボールが足に染じんで来た感じで、バックスの当りが見られるようになってきた。スピードのする相手FWに対応するSとHは女子選手であるのでよほど恐怖感があったと思う。しかし彼女達も今はそれに打ち勝とうとしているのである。

こんな時、係員がこられて「監督さん、殿下が落穂寮にご声援を送っておいでです。ご挨拶に上がられては」との事であった。ベン

チから二〇m位のところである。係員の方には申し訳なかったが私もコーチも試合に釘付けであった。更に三点を失って、試合は終った。選手は元気に引き上げてきた。爽やかな顔である。負けた／＼などと思っているものは唯の一人もないのだ。私も最終手に汗を握っていた。これ程まで、これ程までに真剣に選手達を見つめた事があっただろうか。整列して観客席に向って一礼した。大きな拍手が湧き起った。興奮した気持で帰りかけた「監督さんノよい試合でした。選手のみなさんもよく頑張られました。いいチームですわね」と言

ち
お
は

ち
お
は

痛み声がかれていた。胃が
この日の宿舎は片瀬江ノ島の
(石政) 旅館で午後四時三十分頃
に到着、全員でお茶を飲んで一服
選手の父兄も見えて、今日の試合
ぶりについて話し合う。その中で
は特にHB(ハーフバック)に問
題はあるがこれも選手層から考え
てみれば精一杯のところだろうと
言う結論で一致して、明日の選手
名簿の作製にとりかかった。

PM 6時30分 入浴
7時30分 夕食

11時 夜尿起こし
AM 5時 夜尿起こし

6時30分 起床・散策、江ノ島へ散歩

8時 朝食

9時30分 江ノ島観光、魚船

11時 競技場に向って出

取ったぞノペナルティー
観客席から大喚声

一時三十分キックオフ、昨日よりも観客が多い。開始前から落穂寮頑張れノと落穂寮コールである。昨日と同じように向って左側に整列、対戦相手横浜市立護国学校がレフリーをばさんで右側に整列、観客席に一礼して、相手センターラインにそって左右向い合って試合前の挨拶。レフリーの笛が吹かれた。又もや嵐のような喚声である。観客とほありがたい。昨日の負ぶりに同情してか判官びいきか。今日の相手も大きいなあノ

選手達の動きも今日はいい。特



にFBがよく蹴り返している。それにLWもよく攻めている。まるで夢のようにさえ感じられる。押しつ押しされつが繰り返された。何とか一点がほしい。相手側ペナルティエリア内に幾度も入るのだがもう一步のところまでスライディンググタツクルに合う。これはかなり強いものだった。これだけ攻めても得点出来ないのにハーフタイム直前に味方のミスキックが殆んど相手に触れない位でゴールポストにこるがり込んだ。これにはがっかりした。戻って来た選手達はすっかり上気している。いやこのまま行けばと思った。私を囲んでいる選手達に「調子いいぞノこの調子、この調子。後はFWがラインに持って上がればチャンスがある。特にTに指示した。GKのKにはよく蹴れとる。しっかりとやれノ

これだけ言うとうと選手達はさっさとグラウンドに入ってしまった。レフリーもあつげに取られて「監督さんもう始めるんですか?」「いいえ休憩します」選手は自分のポディションで腰をおろし相手等待つ日に映えたグリーングラウンド上一層エンジのユニホームが目を引きく。
後半、相手チームはスリーバックスでディフェンスし、我々の攻撃を防ぐ。それに相手FWが前半よりも強くタツクルしてくる。味方は好位置でボールを持つがカットプレーに合っている。体力のない年少組のYやAは突き飛ばされっぱなし、それでも大きい相手を追駆ける。走力に大きな差がある。けれども係員の目にAのプレーは好評で名前を呼んでの声援。観客席も騒々しく落穂寮コール、前半と同じくよく攻めているが得点できない。FWの突進が今一つ。HBもFWについて上がれないので二重三重の攻撃が出来ないのだ。それに相手FBの三人が突込んで来るのをやや逃がっている。この辺から相手ペースに移る。味方GKが大きくクリアしてくるボールが相手に渡って一気に攻め込まれ二点を失う。更に不必要(味方の

接触ボールがゴールに入る。な一点を失った。全くちよっとした気のゆるみであった。

残り二分を割っていた。キーパーが大きくクリアしたボールをLWのTが持って、セクターラインを越え相手側に入った。ラインを持って上がれノ持って上がれノセクターリングやノボールが上

った。その時味方のFW、HBが突進した。この瞬間笛が鳴った。ゴールエリア内での相手FBの反則である。我が方にペナルティキックが与えられた。蹴るのはTで

ある。彼が始動を始めた時横からYが走り出して蹴ろうとして一瞬ひやりとした。Tが大声でYを制した。そしてTが動いた。蹴った。

ゴールポスト右角に突き刺さるようにゴールした。ベンチも観客席もこらえていた一切のものを吐きだすかのように拍手と歓声を上げた。全員総立ちであった。

歓声が止まぬうちにホイッスル。

スペシャルオリンピックの参加に当っては各方面からの援助、協力があつたことは忘れることは出来ませんが、中でもガールスカウ

試合は終わった。昨日今日どれ程大望した事か、この一点。選手達は終りの一礼をして握手をかわして引き上げて来た。回りからもよかつた。よかつたノ選手をベンチ前に整列させ、私もコーチも並んで観客席に向つて一礼した。大きな大きな拍手であった。

負けたノ全ては私の力のなさである。それに引き替え選手達はよくやってくれた。それに私達を藤沢にやる為に早朝トレーニングに参加してくれた全職員に感謝の念で一ぱいであった。更に練習に対してグランドを提供して下さった石

部南小学校。練習試合を心よく引き受けて下さった甲賀の雲井サッカースポーツ少年団のみなさん。深くお礼申し上げます。

落穂寮の選手達はスポーツの精神にのっとって競技をし、私達指導者の直接手のとどかない聖域で堂々と自分達の力を発揮してくれたのである。(本田)

たのである。

ありがとうガールスカウトのみなさん

女子中学生達からのたより

トの女子中学生達から熱烈な応援を受けました。帰寮後も数名の少女達から励ましの手紙、クリスマスプレゼントなどを受け、文通を

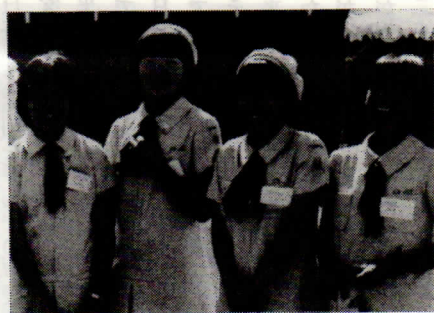
介しての交換が続きました。その中から二通の手紙をご紹介します。よう。

佐藤稚子さんより

こんにちは。めっきり寒くなりましたけど、みなさんお元気ですか？私は寒くてガタガタふるえながらも元気一ぱいです。しています。

スペシャルオリンピックの時から一カ月以上もたちましたけど、おかわりありませんか？私ときたら相変らずの「コブタさん」でコロコロしています。みなさんサッカーやっていますか？ほかに何かスポーツしてますか？スポーツっていいですよネ、健康にも良いし、寒い時でもあつたかくなれるし、私はスポーツ大好きです。特に剣道が好きなのです。八歳の時からずつとやっているのです。でも冬は寒くつらいです。はまだです。からしもやけがいつぱい出来てしまつてカユイカユイ。

みなさんは、どのスポーツが好きですか？やはりサッカーですか？私もサッカーは二、三度やったことがありますが、むづかしいしつかれるし大変でした。私なんてすぐメロメロになつてダウンしてしまふのに、みなさんは最後まで



また来年もお会いしましょうね。

ボールをおつて走つて、すごいですネ。これからもスポーツでも、ほかのいろいろなことでもガンバツて下さいネ。私もみなさんにまけないくらいがんばります。それではお元気でいて下さいネ。

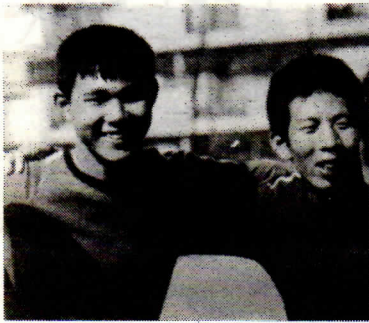
宮地鮎子さんより

落穂寮のみなさん今日は。私は宮地鮎子です。おぼえていますか。ガールスカウト神奈川四六団にいる、そう、もう私といつ会つたかはわかつていただけたことと思ひますが顔がおもいだせないかも知れませんが、特徴をかくことにします。目が大きくて、にきびがあります。そこまですばい思ひ出したでしょう？でも、もっとみなさんに私のことを知ってもらいた

いので自己紹介をします。名前は宮地あゆ子といいます。住所は神奈川県茅ヶ崎市菱沼海岸七丁目四七でんわ〇四六七(八二)〇五七〇年 年齢十五歳、その他の紹介、家は二階建て犬がいます。それに海の近くで江ノ島まで自転車でもいけます。

お話しかわって、この前のスペシャルオリンピックの時の写真をもしよければ送っていただけませんか。あの時のことはいまでも昨日のときのようによく覚えてます。とても楽しい二日間でした。そして今もこうやってみなさんへお手紙を出せるなんてとてもうれしく思っています。来年もまた藤沢の競技場であつたら、みなさんとあえることを楽しみにしています。

お返事をまっています。



みんなよくがんばりました。

子どもたちの東京旅行

自分たちの作品に銀座で対面

||||| 宿泊は練馬の小学校を借用して |||||



東京旅行は上野の西郷さんから。

旅行について

去年の夏(八月二三〜二五日)日頃粘土作品制作に励んでいる子どもらは東京を旅行しました。これは自分たちが一生懸命になつて作った粘土作品が、東京のしかも銀座という大都会の中心地で展示されている、そんな所を訪ねたのです。

東京の銀座明治画廊で作品展示会を始めて以来、各方面から称賛や激励などを受けて、今回はその

三年目にあたり、前回とは違った東京展にしようということで制作者である子供たちを参加させることになりました。ショーウィンドーにスポットライトを使ったり、ディスプレイに工夫されている一つひとつの作品を見た時、子どもたちはどんな顔をするでしょう。これが何か良い影響になるのではないかなんな願いがありません。

今回の旅行は父兄も参加しました。これは子どもたちが日頃何を作っているのかご存知ない方もあるのではないかとということ、落穂寮ではこんなにかんがべているんですよ、ということをご理解いただきたい、このような願いがあったからです。

小学校での宿泊

さて問題となるのは東京での宿泊場所でした。上野駅近くの旅館では目が飛び出るほどの宿泊料です。さてどうしたものかと苦慮していた時、折しも東京練馬区の旭丘小学校の若い先生方が落穂寮へ

粘土作品の見学にこられました。その時、寮長が東京旅行の計画を話し、手ごころな宿舎はないだろうかともちかけた所、それでは私達の教室を使って下さい、というお勧めに、まさしく渡りに船というわけでその期間借用することになりました。

八月二三日(日)

出発の前日、旅行を気にして少し興奮したのでしょうか、からの具合が悪くなったので小森君、山田さんが欠席しました。二人ともさぞ残念だったでしょう。他は予定通り全員が米原駅から東京にむけて新幹線に乗り込みました。車内では子ども達よりも、むしろお父さん方が興奮ぎみの様子でした。

東京駅へ到着して佐藤さんと合流、ここで上野動物園グループと後楽園観戦グループにわかれしました。動物園から旭丘小へ到着。夕食後近くの銭湯へ出かけました。その後お世話いただいている先生方と父兄のみなさんとで交歓会を行ないました。「且つ飲み且つ語り」で気がつくとう午前二時半でした。



明治神宮でのおみくじは………？

八月二四日(月)

池袋の新名所、地上六〇階の展望台へ登りました。厚いガラス越しに見る遠望はどんよりと霞んでいました。地下鉄で銀座まで出て画廊へ到着「あれうちのんや／＼」いくつかの作品を指差して満足げでした。会場が狭いので長居することはできませんでしたが、この子らは何をつかんでくれたでしょうか。



八月二五日(火)

二泊という短い間でしたが、お世話になった先生方に、このお礼は私達の所へおいで下さった時間にお返ししたいと思いますとおいさつ。去りたいものの浅草を経て帰る日です。再会を約束して小学校を出発しました。浅草の仲見世でおみやげを買い一部は二階バスに乗り東京へ。無事東京旅行を終えました。

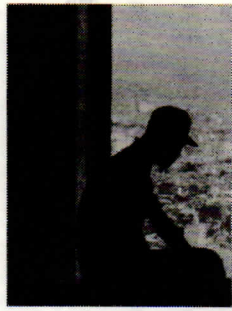
旅を終えて

この旅行でもっとも苦勞をおかけし、お力添えをいただいたのは、旭丘小学校の阪本先生をはじめとする数名の先生方と同小学校のご父兄のかたがたでした。家庭を持っておられる女の先生に連日泊り込みしていただき、朝食や夕食の準備をしていただき、そして夜遅くまで私達におつきあいいただきました。布団の調達、材料

の買い出し、経費の精算など学校の先生としての仕事以外の負担を充分おかけしました。又学校の父兄のかたがたには毎日登校していただき、おやつ作りや夕食ごしらえを先生方と一緒にしていただきました。父兄の中にショートケーキ作りが大変上手なお母さんがおられ、それをいただきました。本職そのこの味の味で驚きました。私達はこんな人達のおかげで、一味違った楽しい旅行をすることができました。そしていろいろとご好意にあまえました。私達はこれ

のご恩は滋賀、京都に遊びに来られた時におかえししたいので、是非お訪ね下さい、と先生方をお誘いして別れを惜しんだのですが、お話をうかがうと小学校は私達が移動できるように簡単にはいかないそうです。私達は是非実現を願っています。その時は落穂寮全体で東京の子ども達を歓迎しようと思っ

(山下)



60階からの東京

せえがき

謹賀新年。読者のみなさんもつつがなく新年をお迎えになったこととお喜び申し上げます。今年も是非ご覧いただくようお願いいたします。▼多くの児童施設が年齢をオーバーした子ども達が増加してきていることに悩んでいます。落穂寮でも児童ではなくった人達の問題に頭をかかえています。子どもも能力、家族の意向などを考え合せながら決まりますが、近いうちに今後の落穂寮の指針のようなものが出てくるでしょう。南郷で二〇年目に石部に移りましたが石部移転以後十年目で又落穂寮は変身をせまられているようです。

▼今回は二期に行なわれた行事のうちいくつかをご紹介します。東京旅行、スペシャルオリンピックは朝日新聞紙上で紹介されたのをご存知の方も多いでしょう。特にスペシャルオリンピック参加にむけて、段階を踏まえた基本練習の積み重ねの報告は今後サッカ一の指導における貴重な実践となるでしょう。第二試合でベナルティキックで一点を取った時のその観客の喚声が直接伝わって来るような熱のこもった個所は充分に味わっていただきたいと思

(山下)